

## 第2回 中野市行政改革推進委員会 会議録（概要）

日 時	令和6年10月29日（火）15:00～16:00
会 場	中野市役所5階 会議室52
出席者等	<p>【正副会長】 涌井会長、平野副会長</p> <p>【委員】 長島委員、小林委員、井藤委員、竹内委員、高木委員</p> <p>【市】 栗林総務部長、阿藤企画財政課長、池田企画財政課長補佐、江澤主事</p> <p>【傍聴者】 なし</p> <p>【報道機関】 信濃毎日新聞、北信ローカル</p>
欠席者	<p>【委員】 清水委員、西野委員、高橋委員、関委員、波切委員、市川委員</p>
次第	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 開会（13名中7名出席、過半数の出席者有りのため会議成立）</li> <li>2 あいさつ</li> <li>3 協議事項 （1）第4次中野市行政改革集中改革プランについて（令和6年度中間点検）</li> <li>4 その他</li> <li>5 閉会</li> </ol>
資料	資料1 第4次中野市行政改革集中改革プラン（令和6年度中間点検）

1 開会（総務部長）

2 あいさつ（会長）

3 協議事項（議長：涌井会長）

（1）第4次中野市行政改革集中改革プランについて（令和6年度中間点検）

資料1：第4次中野市行政改革集中改革プラン（令和6年度中間点検）

#### 【委員】

前回の委員会で色々な施策をやった中のその効果をもう少し具体的に見えるようにとの話があったが、例えば何件削減できましたとか、一部のプランには書いてあったりするが、例えば6頁のRPA等の導入で、赤字で本運用を開始したとかっていう風になっているが、例えばこの辺をもうちょっと具体的に、現状はどうなのかとか、あるいは、その前のプラン(P)のところの話をすると、「シナリオの作成及び管理ができる人材の育成について検討する」というのがプランにあるが、じゃあそれに対して、今の実行(D)の段階ではそういった人材の育成っていうのはどうなっているのか。プラン全般にそうだと思います。PDCAなんて言うと思うんですけど、今年度こういうことやりますよ、それに対する、今出来ているもの、出来ていないものがあると思うが、あるいは進んでいる途中で結果はこれからみたいところの説明が、もうちょっと聞ければわかりやすいのかなと思います。

#### 【事務局】

前回そのようなご意見をいただいて、私どももかなり検討して来た中で、まず費用対効果を見る中で、どうしてもこの行革の内容が内部的なもので人件費の削減っていうんですかね、人数の削減のように読み取れちゃう部分もあるが、それを目的としてやっているわけではないということは、初め、このプラン策定時に説明してきているが、例えば6頁のRPAの導入の関係についても、実は1人の削減はできていないんです。この技術を導入したとしても、実際には0.3とか0.5の業務ということで、削減なり軽減はされて来ていることは確かですが、私もやっぱりこういう技術を入れて来ている以上は、効果として、やっぱり明らかに人の仕事が減って削減されるか、その人の仕事が今度他の業務もできるようになったという形を明確に示していきたいところはあるが、実はなかなか、人数の削減とまでは至っていないところもあり、数字でお示し辛いというところがあります。ただ、このRPA技術との関係については、「人材の育成」の関係に関しても、実はNTT東日本さんから人材を派遣していただいており、DXアドバイザーということで、当課に席を設け、全庁的に職員と近い距離感でサポートしていただくなどの取り組みを行っております。その他、アドバイザーを中心にITパスポートっていうもの

を、職員 10 名程に取得してもらおうと進めており、元々この集中改革プランの中で、DX の推進について大きく取り上げていた中で、全般的には人材の育成なり、ペーパーレス化など、大いに取り組まれているのですが、ただ、委員さんのご指摘の通り、このプランごとに、数字のあるものはいいと思うが、数字のないものについては、いよいよ来年度で集中改革プランも終わりなので、今年度の実績には、何らかの数值化、または、今のような実績についても、人件費なり、人員が 1 人削減できてないのなら、実際に 0.3 なのか 0.5 なのかっていうことも、しっかりと明記し皆さん方にお示しをしていきたいと思っています。個別施設計画の面積の削減みたいなものはすぐ出る、あと、電子契約とかそういうものについても数値的に出て明らかに効果が出ている点があるので、引き続き、今年度の実績のところで、プランごとに少し踏み込んで出していきたいと思っています。

#### 【委員】

例え 0.3 でも効果はあると私は思うんですよ。じゃあその 0.3 の仕事を別の本来、人がやらなくちゃいけない仕事に取りかかっているのであれば、それはそれで 0.3 の人を採用しなくてもいい訳で、要はやっぱり費用対効果っていうのは絶対必要で、これをするにあたって当然投資してる訳ですよ。やっぱりそこを回収していかなくちゃいけないっていうところが当然あると思います。そこは何かしらの形でやっぱり見えるようにしてっただ方が、じゃあ、投資しているのに、その半減だったら半減でいいと思うんですよ。ただ、やっぱりその実際の状況がどうなのかっていうのはやっぱり知りたいですし、じゃあそれを例えば違うところに水平展開できないのかっていうところの中で、0.3 は 0.5 にして行きたいし、業務の工数がこれだけ減りました、人が何人減りましたっていうよりも、やっぱりどれだけそこにかけていた時間がこれだけ浮いて、半日浮いてっていう効果が絶対あるかと思しますので、その辺の検証をしっかりとお願い出来ればと思いますし、進める目的がはっきりしていないと、どこかで違う方向に行っちゃう可能性があると思います。

#### 【委員】

令和 3 年度から 7 年度までの 5 カ年計画ということで、6 年度もほぼほぼ半期が過ぎてまして、残りあと 1 年、実質 1 年半、全体としては、その当初の個々の取り組みについては一応おおむね全部達成することなのかという、そこら辺のところはどうなのかっていうのが 1 点と。あと、先ほどの話にも関連するんですけど、これは今回というよりも、むしろ 7 年度のところというような感じになると思うんですけども、この全体の 5 年間の総括をするときに、そもそも本来の目的がこの 2 頁にある DX の推進で、具体的に言うと事務の効率化ですよ。これはなかなか、行政ですから民間と違ってなかなか難しいところもあると思うんですけど、そういう観点でどうなのかということ。

2つ目は、その組織体制及び人作りについてどうだったのかという点で、3つ目は、次世代に負担を残さないというキーワードのもとで、効率的、効果的な財政、施設等の見直しと。こういう3つの大きな目標があって、その目標に合致するために、具体的な項目として17プランがあると思うんですけども、こういう観点でやっぱり取りまとめていただくとわかりやすいのかなと思います。ここについては書いてある通りで、それ以上でもそれ以下でもないんですけども、そもそもその中身ってのも重点項目のいずれかに該当する、そういう観点でまとめていただかないと、その個々のことは、はいそうですかになってしまう。

重点項目で考えているところが、多分ここにおられる皆さん全然よくわかってないと思うんですよ。それが言葉を言い換えると、もう少し係数的だとか安定性的、定量的、両面でとか色々と言いはあると思うんですけども、ちょっとそこら辺を工夫いただいた方がいいのかなということと、第5次があって、さらに、ちょっとスパンが長い話で第5次があるのかどうかはわかりませんが、第5次に向けてということであると、今回のその第4次の評価っていうのを、そこら辺は十分評価していただいた上で本当に何を取り組むのかということかなと思ってまして、感覚的に言うと、5年間でこう1つのことを、この3つの重点項目ってのは基本的に変わらないと思うんですけど、5年前のことをずっとやってるっていうのは、なかなか時間軸としてはちょっと長すぎる感じがするんですよ。言ってしまうと申し訳ないですけど、スピード感がない中でこうだらだらやっていてもしょうがないし、むしろ5年間で、今のスピード感で言うと、いろんな場の状況が変化するんで、例えば5か年計画でも、中間のところ、これは例えば第5次があるとしたらですよ、中間見直しをして、目標設定をそこできちんと評価して、軌道修正すべきは軌道修正するというような、極端に言うと3年連続ぐらいな感じでロールオーバーするような感じで取り組まれた方がいいのかなっていう、ちょっと印象だけなんですけれども、感じがしております。

それと、あと1点だけ、アウトソーシングのところ、過去の委員会もあったかと思うんですけども、アウトソーシングすることは、それはそれで目標としてあると思うんですけども、この業務委託先に対する市の案というか、業務の監査というかチェックとかですね、そのところもやっぱりきちんとやっていかないと、いろんな意味で、個人情報とかも含めて色々問題が出る可能性があると思いますので、アウトソーシングしたら終わりということではなくて、市の業務を委託するという観点からきちんとチェックをする、監査をするっていうことが大事なかなって、そこら辺のところはちょっとどのように考えておられるのかなっていうのを、もし今日お聞かせいただければありがたいなと思います。以上です。

#### 【事務局】

前後してまいります。まず、アウトソーシングの関係につきましては、絶えず検証実

績を求めておりますし、期間を設けての契約ですので、一生その会社とアウトソーシングの契約をしていくということではないので、その都度業務のチェックも行っておりますし、内容的に悪い内容等があれば改善を求めたり、当然次の契約の時にはプロポーザルなりいろんな競争が働く中でやるので、選ばれない可能性もあるという形で、それは厳しく行っております。全体の達成度合いについては、実は8割、9割方は決まりもついているという風に私も考えていて、ただ、決定したことをより数字を伸ばしていこうとか、そういう取り組みは行っているんですが、それぞれ目標に掲げたものについては、何らかの、導入した、導入しない、できないっていう結論自体が出てるので、もう8割から9割はほぼ完了してるという風に考えております。もう1点、総括につきましては大変ありがたく、dxの推進、組織の最適化、財政運営の強化のこの3つの項目での費用対効果もしっかり出せていければなど、例えば、財政運営の強化の中で、例えば個別施設計画の削減は、20パーセント縮減っていうのも、いわゆる業種で使われていないものの、売却自体も、実は現時点で2億3000万円弱ほど売却をしており、それに関わる固定資産税等についてもかなりの収入があります。なおかつ1番はその施設の維持管理費、運営費がなくなっているということで、この面については最終の時に、しっかり数字でお示しをして、財政運営の強化になってますということをお示ししていきたいと思っております。DXの推進についても、特に先ほどお話した中で、数値化を出来る限り数値化をして、費用対効果、数字も含めて出していきたいと思えます。

組織の最適化につきましては何らかの形で、数字だけではなく、全体として組織がスリム化できたとか適正配置ができてこういう恩恵があったと改めて皆さん方の方へしっかりお示しをして、この第4次集中改革プランによってこれだけ効果がありましたと、それで足りない部分はこうだったっていうことをしっかり示していきたいと思えます。あと、第5次行政改革については、もちろん、やっていく所存でおりますし、一生懸命取り組んでいきたい。この第4次集中改革プランは、見てもらった通り、どちらかというと直接、市民の方に影響が出るものが意外と少なく、内向きの内容で、間接的に市民サービスを向上したいというメニューになっております。今までの第3次集中改革プランは幅広く数多くプランがあったっていう反省の中、絞るだけ絞っていこうということで、第4次、第5次に向けても、本日出席の委員さんからいろんなご提案なり意見を聞いた中で、またやっていければと思えます。

#### 【委員】

2点ほどちょっとお聞きしたいんですけども、1点は、デジタル化の推進、これから人口が減ってって、市の職員もそれに対応していかなきゃいけない。ただ、デジタル化については、いわゆる高齢化社会、市民も高齢化している家庭が相当多くなってきますし、その辺やっぱり推進していく中で、そういう人たちに丁寧にわかりやすく説明をしていくようにしていただきたい。もう1点は、ふるさと納税なんですけど、ここの

中野市全体のふるさと納税、この返礼品がこういうものがありますっていうパンフレットかなんか作ってあるんですか。さとふるとか楽天サイトで春、夏、秋と分けて作って、返礼品を送るときにその箱の中にパンフレットを入れてやるというような細かな、いわゆる商売ですね、販売企画。これは非常に弱い。また、電化製品を特産品で送るっていうのも、私は本来、間違っていると思います。

やっぱり市の基本的な財政の柱っていうのは税金と地方交付税なんですよ。だから、これはやり方によっては非常にね、農業推進って言いますか、全体的な農家の収入が増えていくような施策なり企画を行ってもらいたいと要望を申し上げます。

### 【事務局】

ふるさと納税の関係について、長野県下でも2番目、内容的にはご存知の通り、シャインマスカットが9割ですかね、9割シャインマスカット、残りがリンゴだとか。

市の商工観光課で一生懸命やっているのがフルナビとか楽天サイト、いわゆるインターネット上のサイトの充実っていうのを一生懸命図ってるのが今実際の取り組みであります。本来ならおっしゃる通り、この中野市、中野市でしか作れないものであったり加工品であったり農産物のはずが、今全国的には、ふるさと納税を稼ぐために企業誘致をして、例えば泉佐野市ですかね、ビール工場を誘致して、ビール工場、それでなんとかビールを製造している。そのふるさと納税が多分全国11位とかだった気がします、そういう取り組みがあったりして、本来の趣旨がちょっと変わってきている。とは言いながら、私ども市町村の自治体とすると、このふるさと納税っていうのは、財源とすると非常に助かっていることも事実です。ただ、財政運営上、ふるさと納税をあてにして自治体運営をやっているっていうことは、そういう危険なことはしているわけではないのでご理解いただければと思うんですが、おっしゃる通り、そういうパンフレットにちょっとしたものを入れたりしてやっていくことも大切だなと思います。

あと、DXの丁寧な対応についてもしっかりやっていかなくちゃいけないと思っております。ただ、時代とともに、もう5年から10年すれば、おそらく皆さん使ってる人たちが上がっていくので、ちょうど今がそういう時期であるのかなと。それと、面白いアンケート、統計結果がありまして、実は高齢者だけで住んでる人たちはスマホも使えちゃうし、普通にできてしまうという結果が出ております。

ただ、それぞれの方に丁寧に対応していかないと使い方がわからないとか、まずスマホを持ってもらいたいということもあるので、委員さんのおっしゃる通り、丁寧に対応していく必要があるかなと思います。

### 【委員】

DX推進については、年に2回ほど懇親会を兼ねて勉強会を有志で行っている。講習会とかって聞いても、その時はわかっているけど、いざ使うとなると使えない。でも、

実際に一緒にこうやってやるんだよとか、軽い感じで勉強会を開催しているが反響が良く今後も続けて行きたい。

#### 【委員】

12 頁の市民意見の拡大についてで、LINE を使ってっていう話の中から、今年度は LINE 以外の SNS でみたいなのがあるが、そもそも、今まではこのいわゆる市民の意見の募集っていうのは、どんな形で今まではやっていて、今どんな風になっているのか、例えば今実績が、例えば月とか年でどのぐらいいろいろな声が上がってきているのかっていう、その辺についてはいかがでしょうか。

#### 【事務局】

まず当然、中野市に住民票があつたりとか、連絡先がしっかり記入されたものしか、この市民意見提出っていう制度では受け付けていません。この市民意見提出っていうのは、本来パブリックコメントっていう制度で、いわゆる市が意見を求めた時に提出をしてもらう制度です。それで、以前は当然紙で受け付けていたものが、今度は電子メールでもちゃんと要件さえ揃っていれば、正式な意見として取り上げております。今は長野電子申請サービスというシステムがあつて、そういうものでも受け付けますよっていうことになっております。これまで、意見提出が少ないという課題があつて、それはこの行革の委員会の中でも議論したんですけど、市の計画は公表されて意見を求めても、計画が難しすぎて意見の言いようがないとか、当然ホームページ上でポンと計画書出してるだけなんで、読み込まないと意見が言えない状況にある。いずれにしても、件数とか電子の状況については、今年度の実績報告でお示ししたいと思います。

#### 4 その他

##### 【事務局】

本日を持ちまして、現委員さんの任期につきましては満了となります。行政改革の推進のため、本当に貴重なご意見をいただきまして、誠にありがとうございました。また、現在、新たな委員を選任するべく作業を進めております。それぞれの団体などに推薦お願いしているところですが、引き続きご協力いただける方につきましては、ぜひ引き続きお願いして、ご意見をいただければと思います。

#### 5 閉会（涌井会長）

終了 16 時 05 分